

# 久しぶりに話そうや、

もうすぐ夏本番。夏と言えば全障研大会。今年は8月6～7日に兵庫を会場に開催されます。今、現地準備委員会を中心に多彩な企画の準備が進められています。

新型コロナウイルスがおさまらないなか、全面的な対面での開催は困難ですが、職場や地域単位などで小さな集まりを組織したり、オンラインを通して一人ひとりがつながり、ねがいを語りあうことはできるはず。

今回の特集では開催地・兵庫の実践、歴史、そして人の魅力に迫ります。この一冊を手手に現地で、オンラインで…夏の全国大会でお会いしましょう！

Photo by Jiranon Kaemalathip on Unsplash

# 私たちのねがい

# 2022兵庫大会

Photo by Vladimir Hallakov on Unsplash

## 学びあい、発達保障の輪を広げよう

大会準備委員長 木下孝司

第56回全障研大会は、「久しぶりに話そうや、私たちのねがい」をテーマにして、兵庫支部の仲間とともに開催準備を進めています。兵庫支部での開催は、養護学校教育の義務制実施10年目の第23回大会（1989年）、阪神淡路大震災から5年目の第34回大会（2000年）に続いて、3回目となります。今年は、ロシアによるウクライナ侵攻という暴挙と、社会の矛盾を顕在化させた新型コロナウイルス禍が継続する中で大会となります。戦争や社会に潜む構造的な暴力は、人びとを分断し、憎しみを助長します。そうした動きに抗するためにも、「みんなのねがい」の表紙写真で大切なメッセージを届けていただいている安田菜津紀さんのお話を、多くの方と共有したいと思います。また、堀木訴訟から始まり、今日、優生保護法被害に関する裁判を牽引されている藤原精吾弁護士には、特別報告と学習講座をご担当いただき、自己責任論や優生思想を乗り越えていく視点を学びたいと思います。

この2年間、いろいろと制約の多い状



況下で、子どもや仲間、実践のことを語る時間が少なくなっていないでしょうか。この大会では、障害児者の発達保障、実践や子育てについて語りあうきっかけとなる内容がたっぷり詰まっています。今回の学習講座はオンデマンド配信（期間限定で録画をいつでも視聴可能）ですので繰り返し学ぶことが可能です。また、各支部のみなさんのご協力のもと、感染症対策を行ないながら、地域や職場など小さな単位で集まって、みんなで視聴して、「私たちのねがい」を語りあっていたらできれば、大会テーマを実現できます。

この大会がきっかけとなって、多くの方が学びあい、発達保障の輪が広がることを願っています。（きのした たかし）

## 離れていても、思いが伝わる大会に

大会準備事務局長 早川一穂

この夏の兵庫大会に向けて、2021年2月に準備委員会が立ち上がりました。「はじめまして」のメンバーも多かったのですが、お互いの実践の話などをするうちに打ち解けていきました。準備委員会では新型コロナウイルス禍において、学校や作業所などで子ども・なかま・同僚が置かれている状況、胸のうちにあるねがいを、ていねいに共有し合い、大会テーマである「久しぶりに話そうや、私たちのねがい」という言葉にたどり着きました。

声をあげることができない／制約されている現状だからこそ、現地・オンライン上でつながり、話して、語りあえる大会にしたい！という気持ちが込められています。

昨年9月からはプレ企画を毎月実施してきました（多くはオンライン開催）。地域のNPOの職員・学校の教員・作業所の職員・大学の先生等さまざまな方がお話をしてくださり、県内に限らず全国からの参加者と一緒に学びを深めてきました。オンラインでの参加のしやすさもあってか、職場のつながり等で初めて参

加される方も多く、県内各地に学びの輪が広がっていくのを感じています。また、同時期から兵庫支部ニュース「はあとブリッジ」では「全国大会に向けて」という連載を開始し、昔から兵庫支部を支えてくださっている先輩方に原稿を書いていただきました。当時の社会情勢や運動、兵庫の歴史等に加えて先輩方の今大会への思いを共有することで、県内の会員さんとも大会への気持ちを一緒に高めていきたいと企画してきました。

1日目の全体会は現地+オンラインのハイブリッド形式で開催されます。文化行事ではハイブリッド形式ならではのライブ感・双方向性をもたせた企画を鋭意準備中です。全国のみなさま、ぜひご参加ください。（はやかわ かずほ）

